

謹賀新年

あきたの
あけぼの
488
2016.1.15
かちと



「みんなで仲良くお漬け物」

12月の半ば、水土里の野菜倶楽部で「仁井田大根漬物講座」を開催しました。

お正月を過ぎたら食べ頃とのことで、この会報が発行される頃には皆さんのお宅で美味しく食べられていると思います。

写真提供：松橋 久光
(事業調整センター)



イメージキャラクター
みどりちゃん

CONTENT 1 新年挨拶

CONTENT 2 平成27年度秋田県土地改良事業推進大会

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

会員並びに関係の皆様には、ご家族共々、健やかに初春を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。また平素より、農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に特段のご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

この冬は、12月下旬まで里には雪がほとんど見当たりませんでした。暮れも押し詰まってから荒れた日が続きましたが、新年に入りましても積雪は例年と比べ大変少ないようです。多くの皆様にあっては、雪かき、雪下ろしで苦勞されることがほとんど無く、過ごしやすい日々を送っておられる事と存じます。

振り返ってみますと、昨年も、中央、県南では暖冬で雪が少なかった一方、大館、鹿角などでは平成18年豪雪を超える積雪に苦慮されておりました。また、全県的に空梅雨となり、水不足を心配

された方も多かったのではないかと存じます。更に、9月から10月初旬にかけては、暴風雨が全県各所で発生し、溢水や暴風による被害を受けた方もいらっしゃるかと存じます。県内全般の作柄は平年並み以上を確保できたものの、天候に翻弄された一年だったように感じます。

さて、2015年農林業センサスの概数値が、昨年11月27日に公表されました。農業経営体数や農業就業人口の減少といった農業経営の厳しさを示す指標が並ぶ一方で、組織経営体、特に法人経営数の増加や、一農業経営体当たりの経営耕地面積の拡大など、経営の大規模化を示す指標も出てきております。秋田県では、2010年と比べ、法人経営数は394経営体から603経営体に増加しております。また、一農業経営体当たりの経営耕地面積は2.68haから3.22haに拡大しており、この面積は北海道に続き国内第二位の規模であります。規模の拡大は、コスト低減による経営の安定につながりますが、ほ場整備事業を通じた法人化の促進や、ほ場の大区画化による成果が結実したものであろうかと存じます。

本会は、こうしたほ場整備事業を始めとする農業農村整備事業を、会員各位や関係者の皆様と共に推進し、農業の持続的発展に向けた取り組みを進めておりますが、皆様ご承知のとおり、予算不足の影響は甚だしく、その復活が大いに期待されるところです。TPPが昨年大筋合意に達し、農業の成長産業化に向けた取り組みは待った無しであります。また、国土強靱化や地方創生の観点からも、事業の推進は必要不可欠です。

関係の皆様からの懸命のお力添えもあり、予算編成の基本方針となる「骨太の方針」に「土地改良事業の一層の推進」との文言が盛り込まれるなど、予算確保の気運が高まっておりましたが、昨年12月に相次いで閣議決定された平成27年度補正予算案と平成28年度当初予算案では、農業農村整備事業関係予算としてそれぞれ990億円と3820億円が計上され、これらを合算しますと、平成27年度当初予算と比較し、1222億円が増額されることとなります。正に皆様のご努力の賜であります。

もっとも、今後このとおり予算案が国会で議決されても、平成21年度当初予算の水準にはまだ達しておりません。今後も、国民各層のご理解をいただきながら、農業農村整備事業の推進に向け努力していくことが必要であると強く感じております。

さて、本年は申年であります。農業農村を取り巻く厳しい環境が一つでも多く去ることを願い、また初春の日の出のような明るい日本農業のこれからをご祈念申し上げたいと存じます。各水土里ネットや各市町村などの会員を始め関係各位におかれましては、本会の運営に対する更なるご支援と、「闘う土地改良」へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、新年のご挨拶と致します。

年頭のごあいさつ



秋田県知事

佐竹 敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、「2015 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が2月に開催されたほか、5月には「東北六魂祭」が本県で初めて開かれるなど、国民文化祭が開催された一昨年に続き、県外から大勢の方々がお越しになりました。

政治・経済に目を向けますと、平和安全法制関連2法の成立や、T P P 協定（環太平洋経済連携協定）の大筋合意があったほか、政府においては、「新・三本の矢」を打ち出し、少子高齢化に真正面から向き合う姿勢を示した年でありました。

こうした中、本県では、県政の最重要課題である人口減少の克服と秋田の創生を目指した「あきた未来総合戦略」を策定したところであり、今年、その実現に向けて大胆かつ実効性のある取組を重点的に推進してまいります。

農林水産分野では、農林水産業を成長産業とするため、園芸作物の生産拡大を一層加速させるほか、枝豆など戦略作物のブランド確立に向け、生産と販売の両面にわたる取組を強化してまいります。特にT P P 協定の発効による農産物価格の下落などの影響が懸念されていることから、国による影響緩和対策等とともに、競争力強化に向けた県独自による攻めの対策を講じてまいります。

とりわけ、農業農村整備事業は、生産コストの縮減や複合型生産構造への転換など、本県農業の持続的発展を確保するために極めて重要な施策であることから、県としましては、現場のニーズに的確に対応して事業を推進してまいりたいと考えており、国に対し、必要な予算措置を強く要望しているところでありますので、水土里ネット会員の皆様におかれましても力強いご支援をお願いいたします。

また、本年は県政の運営指針である「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に掲げる取組を着実に推進し、私の任期4年間の総仕上げの年として、県民の皆様が潤いと真の豊かさを実感できる「高質な田舎」秋田の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

結びに、新しい年が水土里ネット会員の皆様にとって希望に満ちあふれた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

目次 CONTENTS

新年挨拶		平成27年度秋田県土地改良事業推進大会	8
・本会会長【高貝久遠】	2	平成27年度土地改良関係団体役職員講習会	10
・秋田県知事【佐竹敬久】	3	「秋田県協和土地改良区」（新設）誕生	10
・全国水土里ネット会長会議顧問【進藤かねひこ】	4	農業農村整備フェアアンケート結果	11
平成27年秋の叙勲受章	4	秋田の原風景を守り継ぐフォーラム	11
予算確保の要請活動（東北・北海道連協）	5	役職員新年あいさつ	12
農業農村整備の集い	6	連合会誌	12
平成28年度農林水産関係予算概算決定の概要	7	編集後記	12

“闘う土地改良”の先頭に立って



全国水土里ネット会長会議

顧問 進藤 かねひこ

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議（全国水土里ネット会長会議）顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km（地球10周分）の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本

の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力
2. 日本型直接支払制度の充実に全力
3. 災害に強い農山漁村づくりに全力
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

生まれ故郷である秋田県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

プロフィール

大仙市（旧協和町船岡）出身で、4人兄弟の末っ子。地元の小・中学校を卒業され、高校は秋田市へ。生徒会や野球にうちこみ、その後、岩手大学農学部へ進学。

昭和61年に農林水産省へ入省。本省のほか、九州・北陸・関東農政局管内、在チリ日本国大使館、熊本県庁で勤務。本省では予算総括の経験が長く、離職直前は中山間地域振興課長を勤めていた。

平成27年秋の叙勲 受章者

平成27年秋の叙勲において土地改良関係者では以下の方々が受章され、佐竹知事からは、「皆さまがそれぞれの分野においてご尽力され、広く社会に貢献されたことに対し、心から敬意を表します」とお祝いのご言葉が贈られました。受章者の皆さま、誠におめでとうございます。

土地改良事業功労



❖旭日双光章
藤井 弘道

- ・秋田県南旭川水系土地改良区理事長
- ・秋田県土地改良事業団体連合会総括監事

地方自治功労



❖旭日双光章
米澤 一

- ・元北秋田市議会議員
- ・北秋田市綴子土地改良区理事長

予算確保の要請活動



11月26日、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：佐貝全健山形県土連会長）の各道県代表者が、森山裕農林水産大臣を訪れ、農業農村整備関係予算の確保と東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動を行った。

森山大臣は、政府のTPP総合対策本部が25日に決定した大綱に言及し「TPP交渉が大筋合意したが、政府として輸出戦略にしっかり取り組む。東北、北海道の皆さんは米どころであるが、稲作以外の例えば畜産などもぜひ頑張っていたきたい」と述べ、高品質の農畜産物については、国際競争力強化

に向けて政府が後押しする姿勢を強調した。さらに「安倍首相からは『現場の皆さんに寄り添って、しっかりとした対策を考えるように』と指示を受けた。農業を成長産業化させるという産業政策、農村集落をどう維持発展させるかという地域政策を車の両輪とする大原則を忘れず、しっかり対応する」と力強く表明した。その後は財務省と、27日には復興庁を訪れ同様の要請活動を行った。要請書の内容は以下の通り。

要 請 書

- ・ 新たな農業政策の実現に向けた、平成28年度農業農村整備事業関連当初予算の十分な確保
- ・ TPP大筋合意に伴う国内農業への影響を過小評価することなく、十分な国内対策を実施すること
- ・ 東日本大震災による農地・農業用施設に係る復旧・復興事業が完了するまでの必要な財源確保と十分な予算措置

農業農村整備の集い

－ 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて －



▲開会宣言を行う高貝全土連副会長(本学会長)

11月27日砂防会館別館「シェーンバッハ・サボア」で、平成28年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から関係者約800名が参集した。

高貝久遠全土連副会長の開会宣言に続いて、二階俊博全土連会長が挨拶に立ち「『闘う土地改良』には2つの意味がある。1つは予算を取り戻すこと。今年は、大臣以下、農林水産省にご理解いただき1,000億要求したが、復活まであと1,300億ぐらい残っている。もう1つは、二度と選挙に負けないこと。地元の皆さん、農業関係者の皆さんに十分理解をいただいて、我々の政策実現のため団結して戦いに挑む決意である」と、平成22年度に大幅削減された土地改良関係予算の復活に向けた決意を述べた。



▲二階全土連会長

また、森山裕農林水産大臣、稲田朋美自民党政調会長からの力強いご祝辞をいただくとともに、駆け付けていただいた多くの国会議員の皆様のご紹介などが行われた。



▲森山農林水産大臣

引き続き、京都大学大学院の浅野耕太教授による「見直そう！国富のみなもと土地改良」と題した基調報告、農林水産省からは11月25日に閣議決定された「総合的なTPP関連対策大綱」の説明、進藤金日子氏（全国水土里ネット会長会議顧問）からは、全国津々浦々の土地改良最前線からの切実な声についての状況報告が行われた。

その後、要請文提案と採択が行われ、ガンバロウ三唱で閉会し、ブロック別に関係省庁への要請活動が行われた。



▲秋田県からの参加者

農林水産関係予算概算決定のポイント

(H27.12.24現在)

平成28年度農林水産予算の骨子

総括表

区 分	27年度 予算額	28年度 概算決定額 A	(27年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
	億円	億円	億円	億円
農林水産予算総額 (対前年度比)	23,090 -	23,091 100.0%	4,008 -	27,100 117.4%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,592 -	6,761 102.6%	1,448 -	8,209 124.5%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,399 -	6,569 102.6%	1,290 -	7,859 122.8%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 -	193 100.0%	158 -	351 182.2%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,499 -	16,330 99.0%	2,560 -	18,890 114.5%

(注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
※ 28年度においては、上記のほか、農林水産分野においても活用可能な地方創生推進交付金を創設するための提出額(62億円)がある。

公共事業費一覧

区 分	27年度 予算額	28年度 概算決定額 A	(27年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
	億円	億円	億円	億円
農業農村整備 (対前年度比)	2,753 -	2,962 107.6%	990 -	3,952 143.6%
林 野 公 共 (対前年度比)	1,819 -	1,800 99.0%	220 -	2,020 111.1%
治 山 (対前年度比)	616 -	597 97.0%	49 -	647 105.0%
森 林 整 備 (対前年度比)	1,203 -	1,203 100.0%	171 -	1,374 114.2%
水産基盤整備 (対前年度比)	721 -	700 97.0%	80 -	780 108.1%
海 岸 (対前年度比)	40 -	40 100.0%	- -	40 100.0%
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	1,067 -	1,067 100.0%	- -	1,067 100.0%
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,399 -	6,569 102.6%	1,290 -	7,859 122.8%
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	193 -	193 100.0%	158 -	351 182.2%
公共事業費計 (対前年度比)	6,592 -	6,761 102.6%	1,448 -	8,209 124.5%

(注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

平成27年度補正予算 (990億円)

【ポイント】

- ・26年度補正予算(193億円)の5倍を確保
- ・TPP対策は来年度以降も継続の見込み

【予算の概要】

- TPP対策 940億円
 - ・大区画化・汎用化 370億円
 - ・平場・中山間地域の水田、畑地、樹園地の整備 406億円
 - ・草地整備 164億円
- 防災・減災対策 50億円
 - 農業水利施設の洪水被害防止対策・耐震対策 (補助事業)

事業名	予算額 (億円)	補助率 ・実施主体	事業概要
農業競争力強化 基盤整備事業	565	・1/2等 ・都道府県等	○農地の大区画化や排水対策により、農地集積・集約化や農業の高付加価値等を推進 【主な内容】 区画整理、暗渠排水、農業用排水施設等
農業水利施設 保全合理化事業	15	・定額、1/2等 ・都道府県等	○水利用の効率化・水管理の省力化、農業水利施設の長寿命化を推進 【主な内容】 農業水利施設の整備等
農村地域防災 減災事業	40	・定額、1/2等 ・都道府県、 市町村、土 地改良区等	○地震や豪雨等による災害を防止し、地域の防災力向上を図るための防災・減災対策を実施 【主な内容】 ため池や排水機場等の整備

平成28年度当初予算 (3,820億円)

【ポイント】

- ・総額232億円(うち公共予算210億円)増額
- ・公共予算は27年度当初予算増額分(64億円)の3倍を確保
- ・補正予算と合わせて27年度当初予算より1,222億円増

【予算の概要】

- 農業農村整備事業 2,962億円(210億円増)
 - ・農村地域防災減災事業 508億円(228億円増)
 - ・農業競争力強化基盤整備事業 365億円(24億円増)
 - ・農業水利施設保全合理化事業 69億円(24億円増)
- 農山漁村地域整備交付金 735億円(前年同額)
- 農地耕作条件改善事業 123億円(23億円増)

(補助事業)

事業名	予算額 (億円)	補助率 ・実施主体	事業概要
農業競争力強化 基盤整備事業	365	・1/2等 ・都道府県等	○農地の大区画化や排水対策により、農地集積・集約化や農業の高付加価値等を推進 【主な内容】 区画整理、暗渠排水、農業用排水施設等
農業基盤整備 促進事業	61	・定額、1/2等 ・都道府県、 市町村、土 地改良区、 農地中間管 理機構等	○畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水等の農地の整備、老朽化した農業水利施設等の整備を地域の実情に応じて実施 【主な内容】 簡易な区画拡大、暗渠排水、客土、除礫等
農業水利施設 保全合理化事業	69	・定額、1/2等 ・都道府県等	○水利用の効率化・水管理の省力化、農業水利施設の長寿命化を推進 【主な内容】 農業水利施設の整備等
農村地域防災 減災事業	508	・定額、1/2等 ・都道府県、 市町村、土 地改良区等	○地震や豪雨等による災害を防止し、地域の防災力向上を図るための防災・減災対策を実施 【主な内容】 ため池や排水機場等の整備やハザードマップの作成等

秋田県土地改良事業推進大会を開催



10月30日、鹿角市記念スポーツセンターにおいて、平成27年度秋田県土地改良事業推進大会が開催された。あいにくの雨模様の中、全县よりおよそ1100名もの関係者が結集し、中島副知事、近藤県議会副議長、児玉鹿角市長、西川衆議院議員（自民党農林水産戦略調査会長）などのご来賓の皆様がご臨席された。



▲高貝会長

高貝会長が「食料自給力の確保や国土強靱化などのためには土地改良事業の着実な推進が不可欠であり、そのためには予算の確保が必要である」と挨拶を述べた。

引き続き、中島副知事を始め、ご来賓の皆様よりご祝辞をいただいた。

正木副会長による開会宣言の後、高貝会長が「食料自給力の確保や国土強靱化などのためには土地改良事業の着実な推進が不可欠であり、そのためには予算の確保が必要である」と挨拶を述べた。

次いで、土地改良

ご来賓のうち、西川公也衆議院議員からは、農業所得向上に向けたお話とTPP対策について熱のこもったお言葉をいただいた。

更に、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問から、食料の国内供給力向上のためには土地改良予算の確保が必須であり、また農山漁村の保全対策も不可欠である、とのお話があった。



▲西川公也衆議院議員



▲高貝会長と握手する進藤金日子氏

農業用施設賠償責任保険・団体傷害保険制度のご案内

みなさまが、安心して『施設維持および管理活動』に従事していただくための平成28年度団体保険制度をご案内いたします。

安心
安心の補償

●農業用施設賠償責任保険 <相手への賠償>

- ◆土地改良区等が所有・使用・管理する施設等が原因となる第三者への賠償事故による損害を補償します。
 - ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃などの施設維持・管理活動中に作業員のミスによる第三者への賠償事故による損害を補償します。
- ※「賠償事故」とは、法律上の損害賠償責任が発生した事故のこと。

●団体傷害保険 <ご本人の賠償>

- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃・施設の保守管理などの施設維持・管理活動中に偶然な事故でケガをした場合、保険金をお支払いします。
- ※健康保険、生命保険、政府労災など他の保険や、加害者から受ける損害賠償金などとは関係なくお支払いします。

議事に移り、県より農業農村整備事業の現状報告が行われ、大会決議が大館市二井田真中土地改良区菅原事務局長の朗読の後拍手をもって採択され、議事を終了した。その後、大仙市大曲土地改良区判田理事長より緊急動議が出された。動議の内容は、来年実施される参議院通常選挙において、全国比例区では進藤金日子氏、秋田選挙区では石井浩郎氏を推薦するというものであった。会議の参加者全員の拍手で推薦が認められ、これを受けて進藤金日子氏と石井浩郎氏が挨拶を行っ

た。最後に畠山副会長が閉会を宣言して、大会は無事終了した。



▲緊急動議

採択された大会決議の各項目の概要と表彰者は次のとおり。

大会決議

- ・ 当初予算の所要額確保と、補正予算における追加的措置
- ・ TPPの影響の見極めと、国内農家経営に対する支障の抑止
- ・ 農地中間管理機構との連携による農地集積・集約化や農地整備の推進
- ・ 多面的機能の十分な発揮、及び日本型直接支払制度の充実と予算確保
- ・ ため池などの防災・減災対策、戦略的保全管理の推進
- ・ 土地改良区の運営基盤の強化、管理体制の充実に向けた支援への取り組み
- ・ 小水力発電などによる再生可能エネルギーの活用推進に向けた施策の充実

土地改良功労表彰(知事表彰)

【団体】

◇由利本荘市矢島町土地改良区(理事長 佐藤 實)

◇秋田県仙南土地改良区(理事長 鈴木 敏夫)

【個人】

畑山 傳一(秋田県仙北南部土地改良区理事長)

長谷山重吉(羽後町土地改良区理事)

鈴木 純子(昭和土地改良区会計主任)

土地改良功績者表彰(会長表彰)

◇高瀬 克康(かづの土地改良区前理事)

◇今野 齋(能代南土地改良区副理事長)

◇戸部 昭(男鹿市渡部土地改良区理事)

◇佐藤 龍一(秋田県七滝土地改良区理事)

◇菅原 孝(平鹿町土地改良区副理事長)

21世紀土地改良区創造運動表彰

【県知事賞】

雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区(理事長 大坂 芳市)

【奨励賞】

新城川土地改良区(理事長 安田 友一)

由利本荘市土地改良区(理事長 正木 正一)



納得 納得のプラン

●納得その1

◆農業用施設賠償責任保険の保険料の計算は簡単!

●納得その2

◆役員・職員以外の方に

- ①土地改良区の夫役等として、組合員による草刈・泥上げ等に従事する方への傷害保険
- ②期間雇用の方への傷害保険

◆役員・職員の方に

- ③役員・職員の方に限定した傷害保険
- 各プランとも新たなプランを設定し、豊富なコースの中からお選びいただけます。

●納得その3

◆傷害保険は、団体加入のスケールメリットとして割引15%を適用しています。

[問合せ先] 総務企画部 総務企画班 TEL.018-888-2714

引受保険会社：三井住友海上 取扱幹事代理店：東北リスクマネジメント

[更新手続き] 2月末日までとなっておりますので、後日、加入申込票を送付いたします。

※上記は、農業用施設賠償責任保険と団体傷害保険の特徴を説明したものです。詳しくは商品パンフレットをご覧ください。
また、農業用施設賠償は昨年と同様ですが、延長距離に変更がありましたら別途お見積り致しますのでご連絡下さい。

全国水土里ネット会長会議顧問

進藤かねひこ氏が 県内各支部で 講演された!

今年度は、11月17日の仙北支部を皮切りに、12月8日まで県内9会場において、延べ857名の関係者が参加し盛会に終了することができた。



<講演を行う進藤かねひこ氏>

■全県共通テーマ

全国水土里ネット会長会議顧問の進藤かねひこ氏（前農林水産省農村振興局中山間地域振興課長）による講演。

演題：「秋田の幸せ」が「未来の日本の幸せ」につながる！
～今を生きるみんなのために、未来の子供たちのために！～



▲高貝会長のあいさつ



▲受講者の様子（山本支部）

■各支部の日程及び主な個別テーマ（敬称略）

仙北(職員)	11月17日	「マイナンバー制度対策セミナー」 ～重要な情報を守るセキュリティ対策のポイント～	キャンノマーケティングジャパン(株) 東北ビジネスソリューション本部 阿部 桂久
秋田(職員)	11月19日	「マイナンバー制度対策セミナー」 ～重要な情報を守るセキュリティ対策のポイント～	キャンノマーケティングジャパン(株) 東北ビジネスソリューション本部 阿部 桂久
平鹿(役職員)	11月25日	出会いに学んだこと (農業から野球そして農業)	北秋田市鷹巣土地改良区 理事長 成田 光弘
仙北(役員)	11月30日～ 12月1日	国営事業の今昔	東北農政局 田沢二期農業水利事業所 所長 工藤 敏光
雄勝(役職員)	12月1日	あきた未来総合戦略について	秋田県雄勝地域振興局 局長 藤原 元吉
鹿角、大館・ 北秋田(役職員)	12月3日～ 12月4日	陽気な母さんたちの挑戦!	陽気な母さんの店 株式会社 代表取締役 石垣 一子
山本(役職員)	12月4日	日本の農業が外国の農業と比べてどのよう にしたら生き残れるか	秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科 教授 長濱健一郎
由利(役職員)	12月7日	御田の方について	(株)岩城 天鷲村事業課 天鷲サポートマネージャー 佐々木裕三
秋田(役員)	12月8日	ほ場整備後の活用策について	秋田県秋田地域振興局農林部農業振興普及課 副主幹 工藤 英明

平成28年1月7日「秋田県協和土地改良区」(新設)誕生

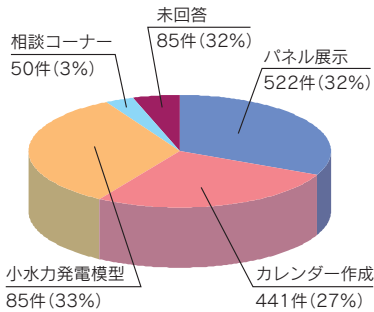
- 合併した土地改良区：大仙市協和小種、大仙市協和
- 事務所：大仙市協和境字野田4（大仙市役所協和支所内） TEL・FAX 018-892-3200
- 理事長：加藤 久 孝（元大仙市協和土地改良区理事長）
- 副理事長：加藤 末 道（元大仙市協和小種土地改良区理事長）

第138回秋田県種苗交換会協賛展示 「農業農村整備フェア」アンケート結果



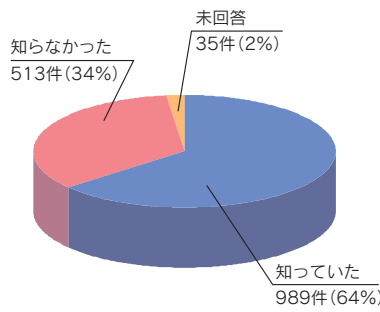
鹿角市トレーニングセンターアルパスを主会場に開催された今年の種苗交換会。水土里ネット秋田と秋田県、東北農政局、秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会が共同で行う「農業農村整備フェア」には約4,000人が訪れ、1,537人にアンケートのご協力いただきました。

■「農業農村整備フェア」の中で、一番印象に残ったコーナーや展示は何でしたか？



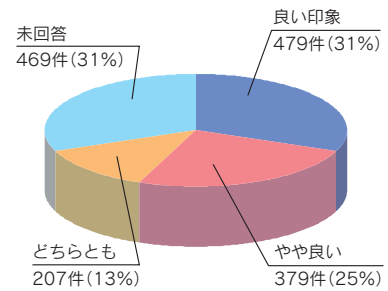
「小水力発電は、毎回模型が進化していて面白い」と毎年の関心事になるほど、小水力発電模型は沢山の方の興味を引いていたように思える。

■「水土里ネット(土地改良区・土地改良事業団体連合会)」という組織をご存じでしたか？



年々認知度が高くなっているが、農業関係職以外の一般の方々にあまり知られておらず、もっと広い範囲に向けたより良い活動のPRを行っていきべきではないかと感じた。

■先の質問で「知っている」と答えた方に質問です。「水土里ネット」についてどんな印象をお持ちですか？



また、「来年も参加して頂けますか」という問いに関しては「訪問したい」が83%、「どちらとも言えない」が7%となり、来年の湯沢市での開催はこのアンケート結果をもとに更なる魅力アップを目指して行きたいと思えます。(詳しくは本会ホームページに掲載します)

平成27年度 秋田の原風景を守り継ぐフォーラム

守るべ!おらほの田んぼ2015

11月24日、秋田県と秋田県多面的機能支援協議会は、大仙市の仙北ふれあい文化センターで、「秋田の原風景を守り継ぐフォーラム」を開催しました。このフォーラムは多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金を実施している活動組織等が一堂に会し、組織同士の情報交換をすることで、集まった組織が自らの地域を見直し、その中で新たな実施活動にも取り組むことができるきっかけとしていただくことを目的に、今年度初めて開催しました。



会場の様子

フォーラムには全県の農地等の環境保全活動を行う組織の方々を中心に800名以上の参加をいただき、「秋田の原風景を守り継ぐ優良表彰」も併せて行われ、県内5組織が表彰されました。



表彰を受けた方々

また、独立行政法人「農研機構」(農業・食品産業技術総合研究機構)農村工学研究所の遠藤和子主任研究員から「地域資源を活かした農村の活性化～プラスαが育まれる仕組みを大切に～」と題して基調講演を行っていただいた他、表彰された活動組織の方々から取組事例を発表していただきました。

今後、参加された皆様が農地維持や農業・農村の多面的機能の発揮に向けて模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている活動事例を参考に、その取組を魅力ある農山村振興に役立てていただけることを期待します。



活動事例紹介コーナー

参加者へのアンケート結果からは、9割以上の方から「事例報告に興味をもった」「今後の参考になった」と回答が得られ、多くの方から今後もフォーラムを継続してほしいとコメントが寄せられました。

＜秋田県農林水産部農山村振興課＞

会長 高貝 久遠
 副会長 正木 正一
 ” 畠山 清俊
 専務理事 清野 弘久
 常務理事 水戸 憲光
 理事 長谷部 誠
 ” 田中 長
 ” 田口 信一
 ” 大坂 芳市
 ” 柴田康二郎
 ” 松田 知己
 ” 鈴木 清道
 総括監事 藤井 弘道
 監事 小川 善信
 外職員 一同

今年もよろしくお祈りします。

平成28年



※秋田市総社神社の特大絵馬

2015 語り部交流会inあきた — 農業農村の「水のつながり」は「人のつながり」—

日時 平成28年1月28日(木) 13:30~16:00

会場 横手市平鹿生涯学習センター 講堂

入場無料 (定員200名)

参加される方は事前に平鹿地域振興局農林部
中村専門員にお申し込み下さい

■ 基調講演 水で結ばれた水系社会 ~山城堰に学ぶ~

ふるさと水と土指導員/あきた森づくり活動サポートセンター所長 菅原徳蔵氏

■ 実践報告 山城堰と堰根祭り Akitaふるさと活力人/山城水系土地改良区職員 太田剛史氏

森と水と子ども 森林インストラクター/横手市立黒川小学校校長 酒井 浩氏

地域の水の保全・酒造り 浅舞酒造社氏/平鹿町土地改良区理事 森谷康市氏

主催：秋田県土地改良事業団体連合会平鹿支部、秋田県平鹿地域振興局農林部

後援：横手市、秋田県土地改良事業団体連合会、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

連 合 会 日 誌

1月18日	都道府県土地改良事業団体連合会長・事務責任者合同会議	東京都
1月22日	秋田県土地改良事業団体職員会役員会	秋田市
1月29日	秋田県農地集団化推進協議会平成27年度第2回理事会	秋田市
2月1日	平成27年度第2回秋田県農村振興技術連盟研修会	秋田市
2月5日	平成27年度災害復旧技術向上のための講習	秋田市「県庁第二庁舎」
2月5日	平成27年度秋田市農業大賞表彰式	秋田市
2月22日	本会第4回理事会	本会「第1会議室」
3月22日	本会第58回通常総会	秋田市「秋田県社会福祉会館」
3月25日	全国水士里ネット総会	東京都

編 集 後 記

皆様、明けましておめでとうございます。お正月、県南にある実家に帰省したときに、雪が積もってなくてビックリしました。暖冬万歳ですが、4年くら

い前に2~3月がすごく荒れたことを思い出すとヒヤヒヤします。「一年の計は元旦にあり」とも言いますので、しっかりと計画を立て、有意義な1年にしましょう。今年も何卒よろしくお祈り致します。(事業調整センター◇寺山)